

2019

科学的能力開発ゼミ 生物編

～江津湖の水環境と生物～



トキワツユクサ



イソコツブムシ



ハグロトンボ



コオニヤンマ



ナベブタムシ



ミクリ



上江津湖



サワガニ



カワナ



アオサギ



1年理数科

号

氏名

調査ポイント:

発表テーマ:

目 次

項 目	ページ
1 『科学的能力開発ゼミ』 野外実習実施計画 (目的・研究計画班・生物班引率教員)	2
2 実施計画 (内容説明・日程等)	3
3 班構成	4
4 準備するもの・注意事項	5
5 調査について (調査ポイント・調査方法)	6
6 資料 ・水質調査の基礎知識 (COD・PO ₄ ・NO ₃ ・pH) ・他の水質調査、生物学的水質判定法、コドラート法 (区画法) ・底生動物を調べる 出典 熊本県環境生活部環境局環境保全課 川の水環境「調査のてびき」	8
7 観察レポート	18
8 考察・感想	22

テーマ 『江津湖の水環境と生物』

目 的

熊本市東区に位置する江津湖は、全国的にも珍しい市街地にある湧水湖であり、健軍水源地周辺は日量40万 m^3 の地下水が湧出している。そのため、ヒメバイカモやヒラモなどをはじめ、ヨシノボリやシマドジョウなど貴重な水生動植物が生息する自然環境に恵まれた地域である。第二高校からも近く、生徒も身近に親しんでいる場所である。

本校1年理数科では、平成6年からこの江津湖を野外調査の場所として、水生動植物の同定や水質調査を行い、生物を指標とした環境学習の基礎的な手法を学んでいる。平成28年は、理数科の長年にわたる調査研究の功績が評価され、「肥後の水とみどりの愛護賞」を受賞した。

江津湖の水環境については、近年湧水量の減少をはじめ、富栄養化が報告されている。また、ボタンウキクサ、テラピア、ブラックバスなどといった外来種の増加なども新聞等で注目されている。特に最近では、外来植物であるブラジルチドメグサが大繁殖し、生態系への影響が懸念される。熊本市は、外来動植物の駆除や白川上流域での湛水事業を行い、江津湖の水環境及び地下水保全に積極的に努めている。

水環境の状態を示す指標としては、無機的な pH・溶存酸素量などの他に、水中に生息する水生昆虫を用いる方法がある。カゲロウの幼虫などの水生昆虫は水環境の影響を受けやすく、清らかな環境に分布する種と汚濁の進んだ環境に分布する種とでは、明らかに種構成に違いが見られる。こうした生物を指標として水質を調べる方法に「パンドル・パック法」、「ベック・津田法」、「簡易調査法」があり、多くの湖沼・河川における水質調査に利用されている。

今回の野外実習では、上江津湖周辺に7カ所の調査地点を設定し、それぞれの地点での科学的な水質検査（pH・化学的酸素要求量・硝酸態窒素濃度・リン酸態リン濃度など）をはじめ、水生昆虫の種構成及び密度を班毎に調べることにより、江津湖の水環境について生物学的な視点から考察する。

参加者

1年理数科 43名（男子33名 女子10名）

引率教員

第二高校 職員（7名）

●○●実施計画●○●

1 能力開発ゼミ（生物）野外実習内容説明

- (1) 江津湖の水環境に関する事前学習 5月14日（火）
演題「江津湖の生物相」
講師 清水 稔 先生（熊本博物館 学芸員）
- (2) 事前指導及び予備実験 5月28日（火）
- (3) 野外実習（水生生物の採集・水質調査） 6月 4日（火）終日
水生生物の同定及び個体数調査・水質調査
※野外実習が延期になった場合、日程が変更となる可能性あり。
- (4) データのまとめ・発表準備 全3回（計6時間）
- (5) プレゼン発表 7月16日（火）

2 事前指導

江津湖に関してこれまで行われてきた調査について示し、生態系全体について事前学習を行う。また、野外実習での水質調査の方法（パックテストなど）や水生生物の採集方法（コドラート法）及び水生生物の生態や分類の方法を学習する。

3 日程

調査日時・・・令和元年(2019年)6月4日（火）（小雨決行）

- 7：40 登校・早朝学習
- 8：10 更衣・出発準備
- 8：30 校門集合・出発
- 9：00 江津湖集合
- 9：30 調査開始（1区間 約30分）
- 12：10 調査終了
- 12：20 江津湖出発
- 12：40 学校到着（到着後更衣・昼食）
- 13：45 生物A教室にてデータ及び採集生物の整理
（生物A教室でサンプル整理及び同定作業実施）
- 16：35 試料の整理終了・解散

※データ及び採集生物の整理が時間内にできなかった場合には、
放課後等を利用してやり終える。

●○●班構成●○●

①現地調査班

☆自分のポイントで水質検査を行い、他のポイントでは生物採集をします。

【Aグループ】

ポイント1	ポイント2	ポイント3

【Bグループ】

ポイント4	ポイント5	ポイント6	ポイント7

②テーマ発表班

	テーマ	調査ポイント担当者	発表テーマ担当者
A	江津湖の周辺環境		
B	化学的水質判定		
C	生物指標による水質判定		
D	江津湖の地学的環境		
E	江津湖の水生動物層		
F	江津湖の植生		

●○●準備するもの●○●

- 課題研究のしおり
 - 筆記具
 - 飲み物（水筒やペットボトル）
 - タオル
 - 帽子
 - 着替え
 - 靴（濡れてもよいもの。サンダルは不可。）
 - ビニール袋
- ※その他、各自必要なものを考えて持参する。（電車賃や常備薬など）

●○●注意事項●○●

- ①観察のポイントを的確に把握する。
- ②こまめに記録をとる。
- ③行動は迅速に、無駄な行動や話を慎む。
- ④礼儀正しくする。
- ⑤危険な行動はしない。
- ⑥来た時よりも美しく、ゴミはすべて持ち帰る。
- ⑦野外実習に適した服装（水の中に入るのので、濡れてもいい服・靴を着用。）
- ⑧採集時の自然破壊は、最小限に止める。

熱中症の予防・対策を忘れずに！

熱中症は気温などの環境条件だけでなく、人間の体調や暑さに対する慣れなどが影響して起こります。気温がそれほど高くない日でも、湿度が高い・風が弱い日や、体が暑さに慣れていない時は注意が必要です。

※江津湖実習は移動を含めると5時間程度かかります。途中で飲み物を購入することはできませんので、飲み物は多めに準備してきてください。（天候にあわせてペットボトルを凍らせたり、水筒を持参するなど各自工夫を！）

※当日までに十分な休養をとり、体調を整えておいてください。

実習当日は朝食をしっかりと食べてきてください。

（事前の水分塩分補給につながります）

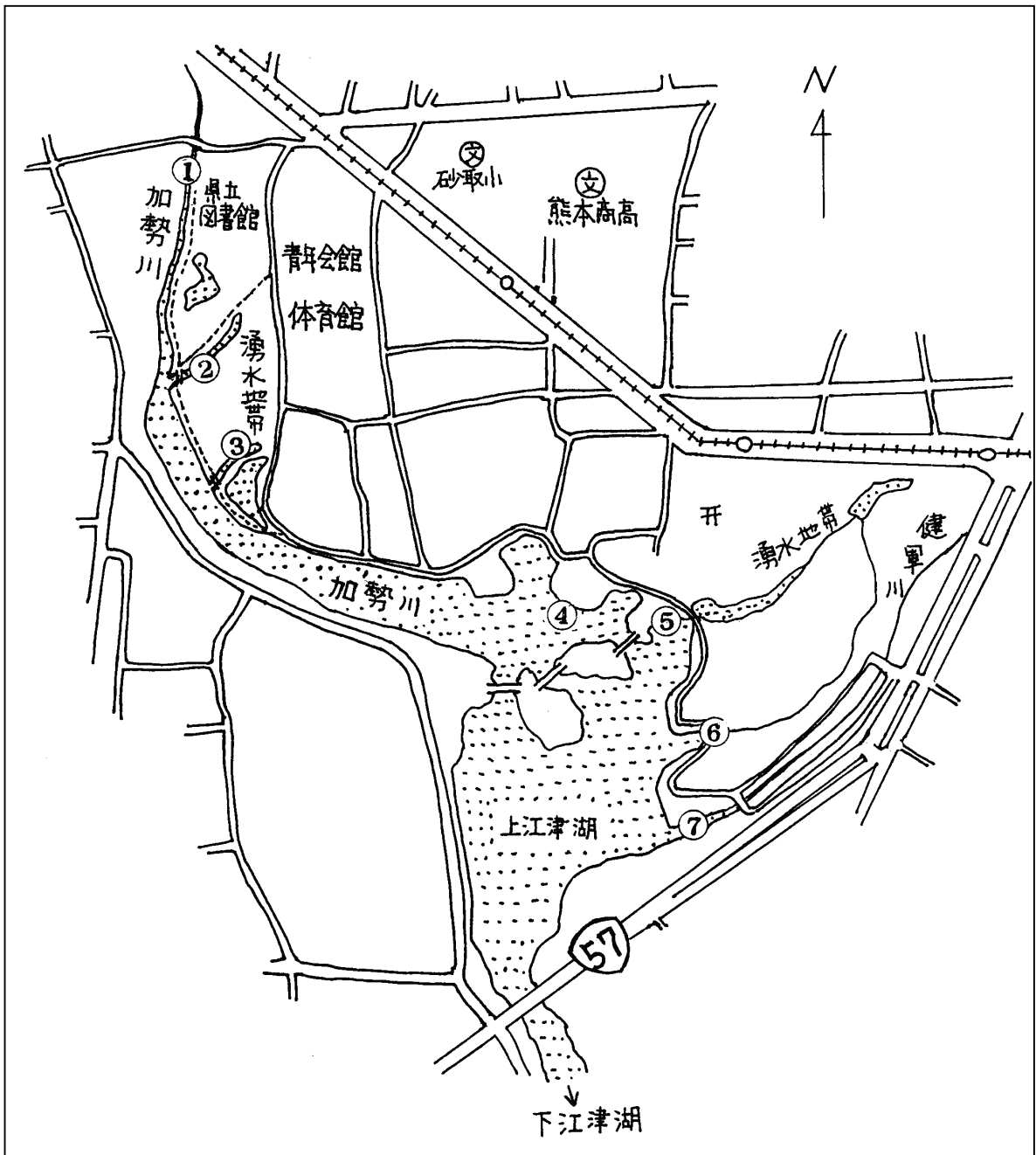


●○●調査について●○●

1. 調査ポイント

上江津湖の県立図書館裏にある芭蕉公園周辺から神水湧水地帯・健軍川にかけて、多様な環境を代表する調査ポイントを7カ所設定し、これらのポイントで水生生物の採集を行う。

< 江津湖概略図 >



2. 調査方法

- ①各班の担当者は、水生生物の採集を始める前にバケツとポリ容器にポイントの水を入れる。その後、観察レポートに沿って以下の項目を測定する。
また、ポイント周辺に生息する生物や植物の写真を撮影する。

<input type="checkbox"/> 天気・気温・水温	<input type="checkbox"/> 水深
<input type="checkbox"/> 流速	<input type="checkbox"/> 透視度
<input type="checkbox"/> パックテストの数値（硝酸態窒素・リン酸態リン）	
<input type="checkbox"/> pH	
※パックテストと pH の測定はそれぞれ3回行います。早めにとりかかりましょう。	

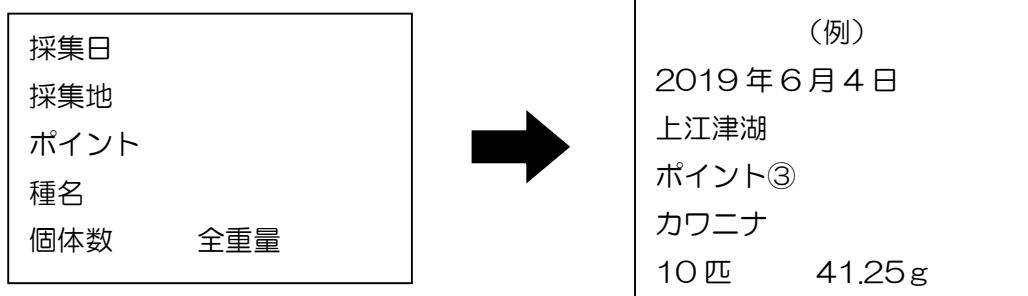
- ②50cm×50cm のコドラートを水底に置き、区画内の生物をすべて採集し、トレイに集め、サンプル瓶に入れる。
- ③帰校後、ポイント毎に採集した生物種名を調べ、個体数と個体重量を測定し、個体群密度を求める。
- ④分光光度計を用い、採水した水の化学的酸素要求量（COD）・リン酸態リンを測定する。

3. 調査の集計・まとめ

◆水生生物の同定及び定量処理

- ①それぞれの班ごとに種の分類・同定、計量、個体群密度などを算出する。
（中身の入っていない貝類はカウントしない。）
- ②採集した生物を種ごとにサンプル管に入れ、アルコールに浸す。

【ラベルの書き方】



◆観察レポートの作成・考察等

- ①観察レポートを記入する。（P17～P19）
※ポイントの様子を忘れないうちにまとめておく。
- ②ポイント別ノートを作成する。
- ③考察・感想（P21）を記入し、期限内に提出する。

水質調査の基礎知識

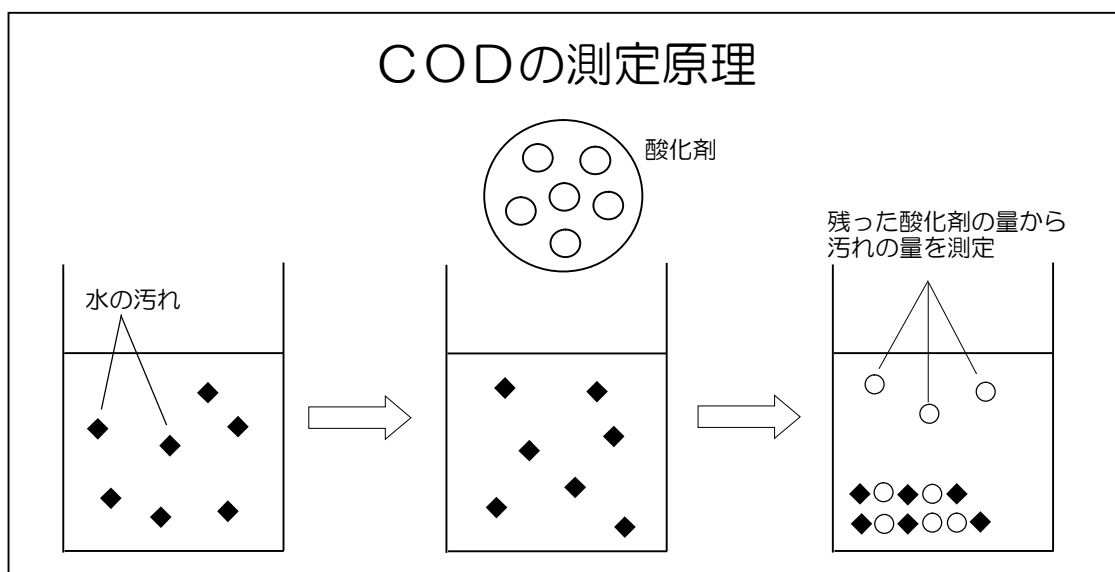
今回の水質調査で調査する項目

化学的酸素要求量	…	COD
(Chemical Oxygen Demand)		
硝酸 (硝酸態窒素)	…	NO ₃
リン酸 (リン酸態リン)	…	PO ₄
水素イオン濃度指数	…	pH

CODとは何？

CODは、Chemical Oxygen Demand の略で、「化学的酸素要求量」といい、環境省の「湖沼水質調査」の指標として使われている。簡単にいえば、水の中に含まれている汚れ（主に有機物の汚れ）を数値化したものである。

CODの測定原理は簡単である。水の中に強力な酸化剤を入れると、水中の有機物などの汚れに結合して酸素を供給し、汚れが多いほど酸化剤が使用される。残った酸化剤の量の測定により、汚れと結合した酸化剤の量がわかり、この酸素の量が、化学的酸素要求量（COD）である。



NO₃とは？

硝酸態窒素は、硝酸塩や硝酸イオンに含まれる窒素であり、農地の肥料や家畜の排泄物、家庭排水に含まれている。それが地下に浸透し、地下水として地上に出てくる。硝酸態窒素が多く含まれる水を飲むと、血液中のヘモグロビンの酸素運搬を阻害するので乳幼児を窒息死の危険にさらす。硝酸態窒素が、体内で亜硝酸態窒素に変化すると発ガン物質になり、毒性も強くなる。

地下水・水道水の環境基準・・・10mg/L以下

PO₄とは何？

リン酸（P）は地中に広く存在し、また自然水中に含まれている。リンは肥料の三大要素の一つであり、植物には肥料として多く補給されている。水中にリンが増加するのは、肥料に由来する農業排水や地下水、し尿や洗剤などの生活排水、さらに工場排水等から混入する場合が多い。

リンはそれ自体が直ちに水質汚濁を生じる物質ではないが、生物の生殖活動に重要な役割を果たし、湖沼海域などの富栄養化を促進するものである。

河川の上流の水・雨水・・・0.05ppm以下

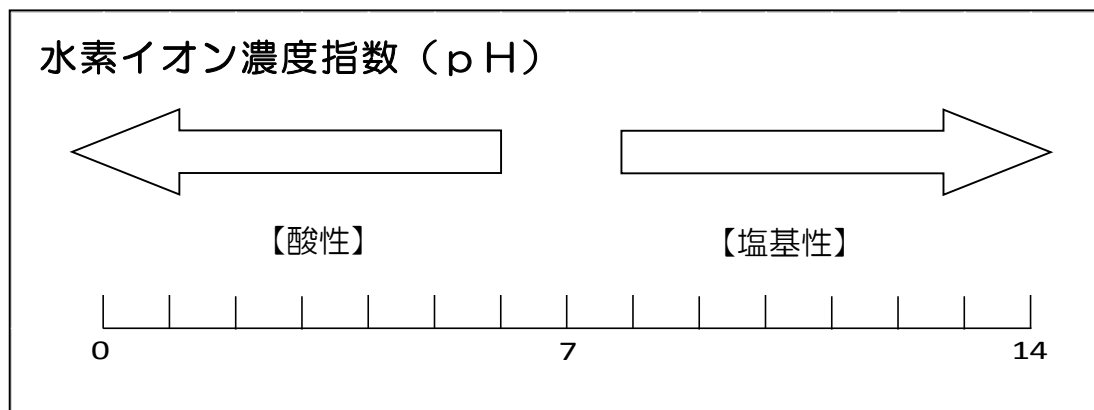
河川の下流の水・・・・・・・・・・0.1～1.0ppm

リンは洗浄力向上のために合成洗剤に含まれていたが、無リン化が進められた現在、合成洗剤に起因するリンは減少している。

pHとは何？

水質の酸性あるいは塩基性（アルカリ性）の程度を示す指標であり、7.0が中性で、pH値が7.0より低いと酸性、高いと塩基性となる。

環境基準値：pH6.5～8.5 酸性雨pH5.6以下



強酸

強塩基

他の水質検査

- BOD（生物化学的酸素要求量）

水中の汚濁物がバクテリアによって分解されるときに必要な酸素量で、数字が大きいほど水質汚濁が激しい。【環境基準 2mg/L 以下】

- SS（浮遊物質量）

水中に浮遊する物質の量で、数値が大きいほど水質汚濁が激しい。水の濁りの原因となり、SSが大きくなると魚類に対する影響が現れる。

【環境基準 25mg/L 以下】

- DO（溶存酸素）

水の浄化作用や水生生物の生存に必要とされる酸素が水中に溶けている量で、数値が小さいほど水質汚濁が激しい。【環境基準 7.5mg/L 以上】

- 大腸菌群数

大腸菌とは、乳糖を分解して酸とガスを発生する好気性または嫌気性の細菌である。大腸菌が水中に存在することは、人畜のし尿などで汚染されている可能性を示す。

【環境基準 1,000MPN/100mL 以下】

生物学的水質判定法

水生生物には、きれいな水を好む生物と汚れた水を好んだり耐える生物とに大きく大別される。専門的には、汚水生物系列として、貧腐水性(oligosaprobic)、 β - 中腐水性 (β - mesosaprobic)、水性 (α - mesosaprobic)、強腐水性 (polysaprobic) の4つに分けられる。

また、環境省・国土交通省が生物指標種を限られた種数にして、水生生物による簡易水質調査法を実施しており、全国的に普及している。生物学的水質判定は、1回の調査で汚濁の影響の平均値を得るところに長所があり、汚濁物質が何かであるかを知りたい場合、化学分析を行わなければならないことが短所といえる。

調査は、春夏秋冬の時期に各1回行う。1年間を通して調査すれば、種数や個体数に変化があり、一定していないことがわかる。水性昆虫は、冬に個体数が多く、春から夏にかけては成虫になる時期なので、個体数が減少する。採取の時期によって指標(index)にばらつきがあることも、判定の時に考慮しなければならない。各調査地点において、どのくらいの種がいて、優占しているかなどを検討して、総合的に判断していく必要がある。(大川中HPより参照)

コドラート法（区画法）

一定面積の区画を設置して、その中の個体数・生物体量などを調査する方法。動植物の個体群密度や分布様式、また群集の種類構成を調査するために広く用いられている。



カワゲラ類

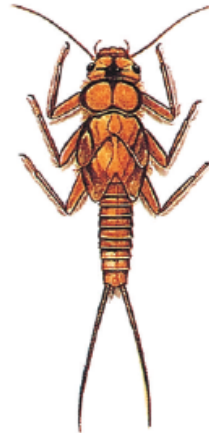
No.1



モンカワゲラ属



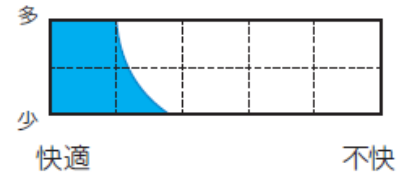
オオヤマカワゲラ属



フタツメカワゲラ属

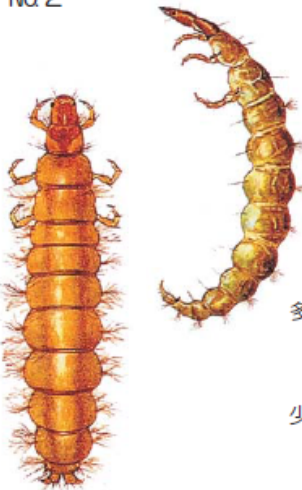
- *水生昆虫 (幼虫)
- *尾は2本、足は3対
- *足の爪は2本
- *エラは主に胸部下
- *大きく強そうな体
- *体長は約10～40mm

水環境評価



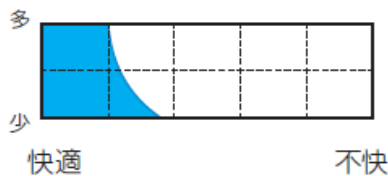
ナガレトビケラ類

No.2



- *水生昆虫 (幼虫)
- *3対の足がある
- *頭と前胸は硬い
- *体節はくびれている
- *腹の末端に大きな爪
- *体長は約20mm以下

水環境評価



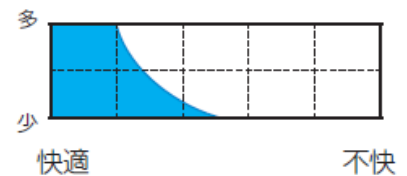
チラカゲロウ

No.4



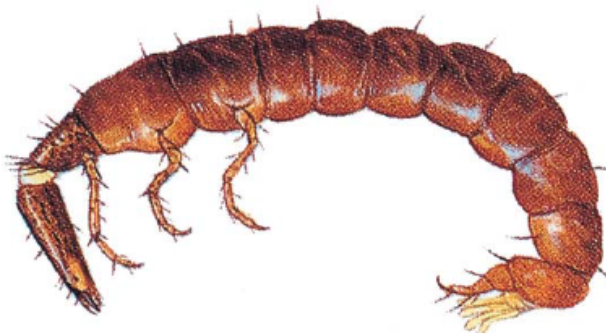
- *水生昆虫 (幼虫)
- *3対の足がある
- 前足に長い毛がある
- *エラは腹部に7対、尾は3本、中の尾は短い
- *体長は約20mm

水環境評価



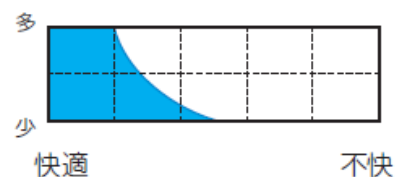
ヒゲナガカワトビケラ類

No.3



- *水生昆虫 (幼虫)
- *3対の足がある
- *頭は大変細長い
- *前胸部だけが硬い
- *石の間に網を作る
- *体長は約40mmになる

水環境評価



底生動物を調べる (指標生物：2)



携巢性トビケラ類

No.5



ヒメトビケラ属



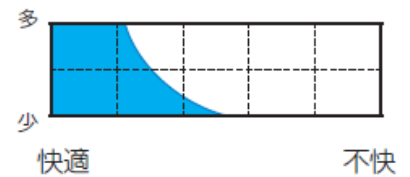
ヤマトトビケラ属



コカクツツトビケラ属

- * 水生昆虫 (幼虫)
- * 3対の足がある
- * 石粒・木葉・小枝の巢
- * 巢を持ち運んで生活
- * 頭と足を出して移動
- * 体長は約8～25mm

水環境評価



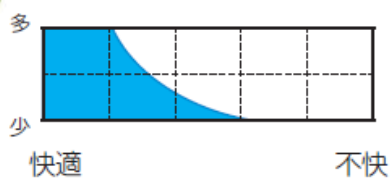
ニッポンヨコエビ

No.6



- * 甲殻類、端脚目
- * 石の下にすむ
- * 横向きにすばやく泳ぐ
- * 体は左右に平たい
- * 体色は黄褐色、赤褐色
- * 体長は約8～12mm

水環境評価



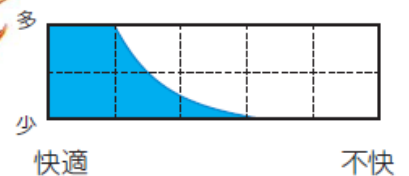
サワガニ

No.6



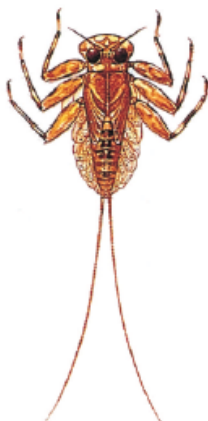
- * 甲殻類 (十脚目)
- * 甲らとハサミがある
- * 石の下にすみ、歩行
- * 陸上も歩行する
- * 甲らは淡褐色、赤褐色
- * 甲らの幅約20～40mm

水環境評価



ヒラタカゲロウ類

No.7



エルモンヒラタカゲロウ



キイロヒラタカゲロウ



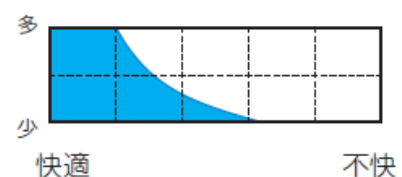
ウエノヒラタカゲロウ



エルモンヒラタカゲロウ

- * 水生昆虫 (幼虫)
- * 尾は2本、足は3対、爪は1本
- * エラは腹部の横にある
- * 体全体が平たい
- * 体長は約10～20mm

水環境評価



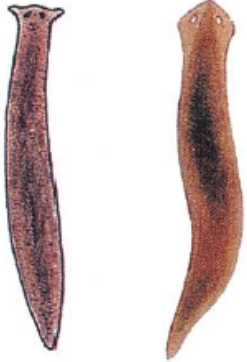
底生動物を調べる (指標生物: 3)



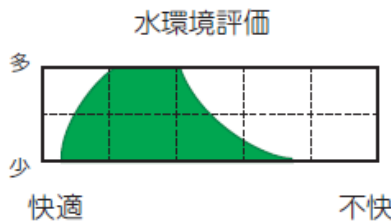
ウズムシ類 (プラナリア)

No.8

- * 扁形動物、渦虫類
- * 石・泥の上をばう
- * 体は平たく体節はない
- * 体は柔く、切れやすい
- * 体色は褐色、黒褐色
- * 体長は約10~20mm



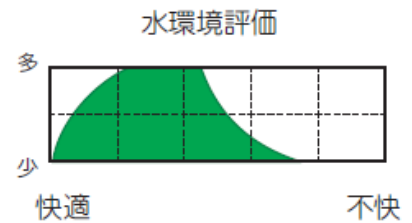
ミヤマウズムシ ナミウズムシ



ヘビトンボ類

No.9

- * 水生昆虫 (幼虫)
- * 腹部の各節にムチ状突起物 (エラ)
- * 足は3対、爪は2本
- * ムカデのような形
- * 体長は約50~70mm



マダラカゲロウ類

No.10

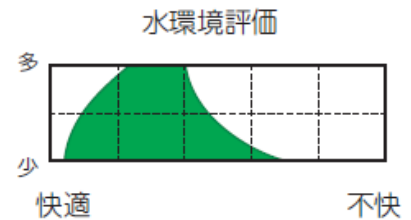
- * 水生昆虫 (幼虫)
- * 尾は3本、足は3対
- * 足の爪は1本
- * エラは腹部の上
- * 体は硬くがんじょう
- * 体長は約5~15mm



オオマダラカゲロウ



オオクママダラカゲロウ



タニガワカゲロウ類

No.11

- * 水生昆虫 (幼虫)
- * 尾は3本、足は3対
- * 足の爪は1本
- * エラは腹部の横
- * 体は平たい
- * 体長は約10~15mm



ミヤマタニガワカゲロウ



クロタニガワカゲロウ



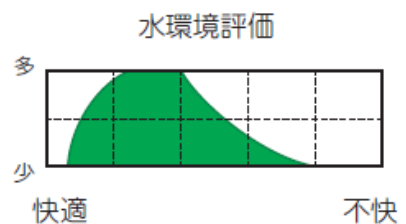
シロタニガワカゲロウ



キブネタニガワカゲロウ



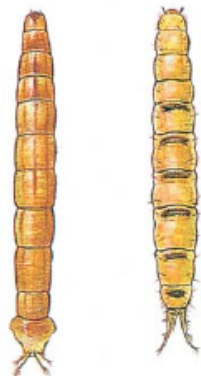
シロタニガワカゲロウ





ガガンボ類

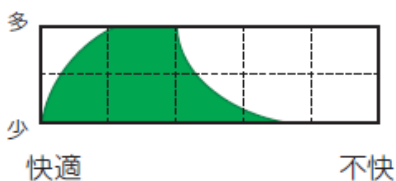
No12



ガガンボ ウスバヒメガガンボ

- * 水生昆虫 (幼虫)
- 双翅目 (カの仲間)
- * 足と眼がない
- * 頭に小さな触覚
- * 体はイモ虫の形
- * 体長は約5~25mm

水環境評価



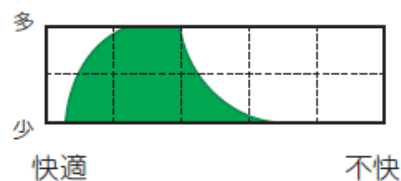
ブユ類

No12



- * 水生昆虫 (幼虫)
- 双翅目 (カの仲間)
- * 胸部に1本足のようなものがある
- * 腹部末端が太い
- * お尻に吸盤とエラ
- * 体長は約5~10mm

水環境評価



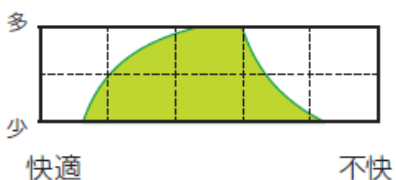
カワニナ

No13



- * 巻貝類 (軟体動物)
- [ホタルのエサ]
- * 成貝は殻頂がかける
- * 殻口は卵形、右側
- * 殻径は約8~12mm
- * 殻高は約10~30mm

水環境評価



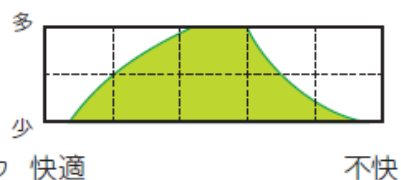
コカゲロウ類

No15



- * 水生昆虫 (幼虫)
- * 尾は3本、足は3対
- * 足の爪は1本
- * エラは腹部の横
- * 体は流線型、泳ぐ
- * 体長は約5~10mm

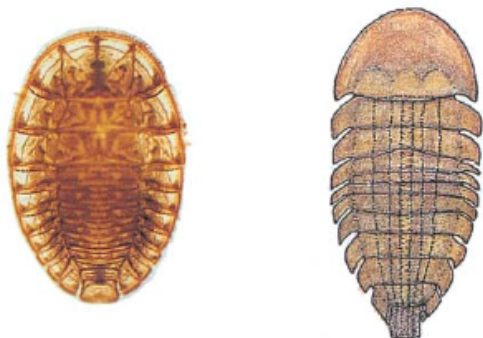
水環境評価



シロハラコカゲロウ 快適 不快

ヒラタドロマシ類

No14

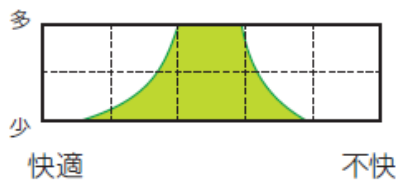


ヒラタドロマシ

チビヒゲナガハナノミ

- * 水生昆虫 (幼虫)
- * 背面から見えないが裏に頭、足、エラがある
- * 石の表面について生活
- * 体の表面は硬く、卵形、体長は約5~20mm

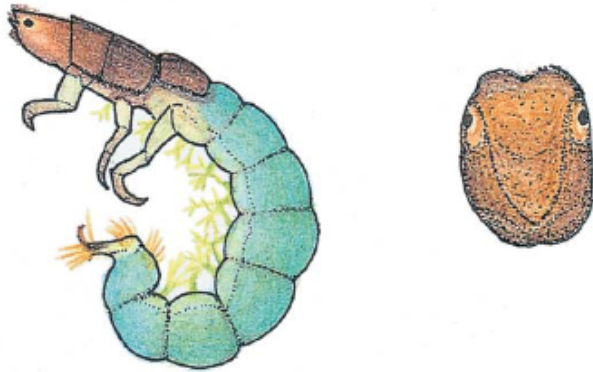
水環境評価



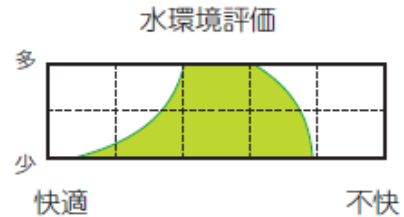


コガタシマトビケラ

No16

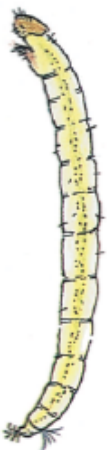


- * 水生昆虫 (幼虫)
- * 3対の足がある
- * 頭部前の中央が凹形になっている
- * 腹部にフサ状のエラがある
- * 体色は茶褐色か緑色、体長は約12mm

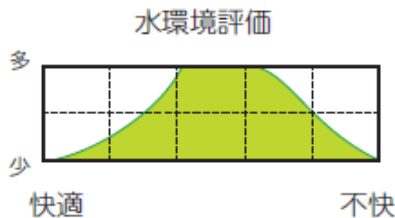


ユスリカ類 (白色～緑色)

No17



- * 水生昆虫 (幼虫)
- 双翅目 (カの仲間)
- * 胸部に1本足の
ようなものがある
- * 体色は白、黄、緑色
- * 体はイモ虫の形
- * 体長は約2～10mm

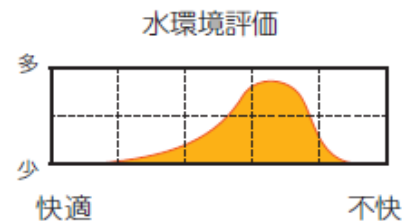


シジミガイ類

No18

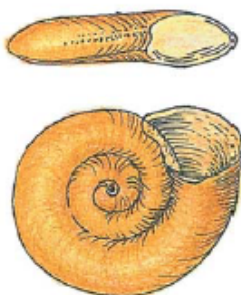


- * 二枚貝類 (軟体動物)
- * 黄褐色～黒味をおびる
- * 卵三角形殻頂部が膨らむ
- * 殻長は約5～40mm
- * 殻幅は約3～25mm
- * 殻高は約3～35mm

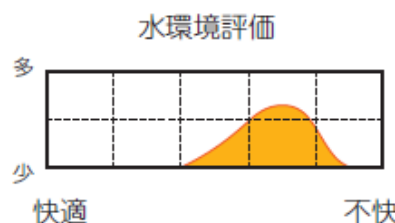


ヒラマキガイ類

No18



- * 巻貝類 (軟体動物)
- * 体色は黄褐色
- * 殻は薄質、半透明
- * 扁平な円盤状
- * 殻径は約6～7.5mm
- * 殻高は約2mm



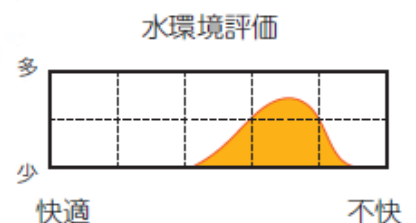
ヒラマキミズマイマイ

カワコザラガイ

No18



- * 巻貝類 (軟体動物)
- * よごれて黒い：淡黄色
- * 低い笠形で楕円形
- * 殻頂は中央からずれる
- * 殻長は約3～5mm
- * 殻高は約1～2mm





モノアラガイ類

No.18



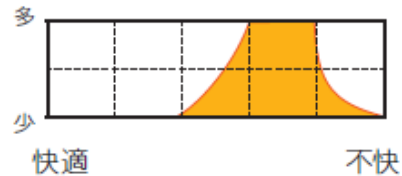
モノアラガイ



ヒメモノアラガイ

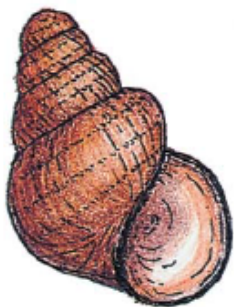
- * 巻貝類 (軟体動物)、体色は淡い黄褐色
- * 体層は大きくふくらむ、殻口は大きく右側
- * 殻径は約7~20mm、殻高は約10~25mm

水環境評価



タニシ類

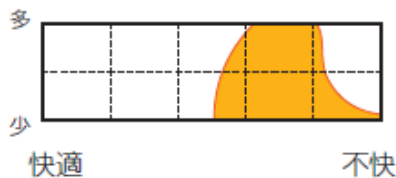
No.18



マルタニシ

- * 巻貝類 (軟体動物)
- * 体色は黄緑~黒褐色
- * 体層は大きい
- * 殻口は卵形で右側
- * 殻径は約20~50mm
- * 殻高は約35~65mm

水環境評価



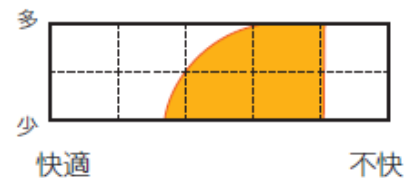
イシマキガイ

No.18



- * 巻貝類 (軟体動物)
- * 白、黄褐色の斑紋
- * 体層大きく殻口右側
- * 殻は石のように硬い
- * 殻径は約20mm
- * 殻高は約25mm

水環境評価



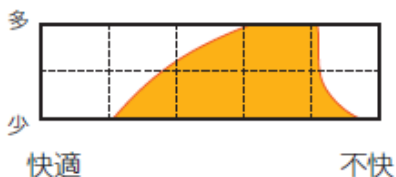
サホコカゲロウ

No.19



- * 水生昆虫 (幼虫)
- * 尾は3本中央と末端に黒い帯斑がある
- * 足は3対、爪は1本
- * エラは腹部横に7対
- * 体長は約5~8mm

水環境評価



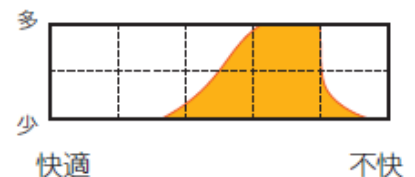
ミズムシ (等脚目)

No.20



- * 甲殻類 (等脚目)
- 川にすむのは1種類
- * 体色は灰褐色~黒褐色
- * 足は5対以上ある
- * 体形は背腹に平たい
- * 体長は約10mm

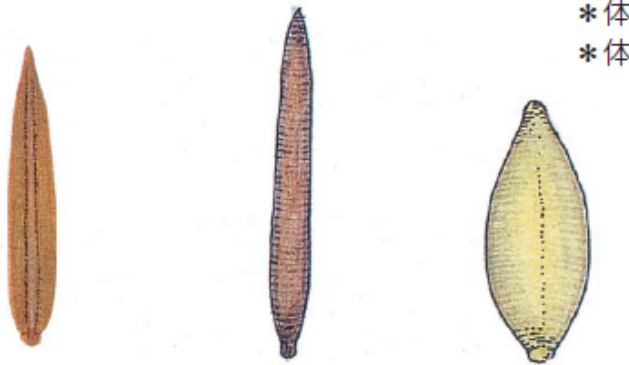
水環境評価





ヒル類

No21



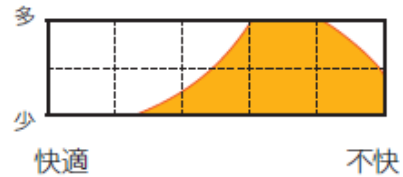
シマイシビル

ピロウドイシビル

ハバヒロビル

- *環形動物 (ヒル類)
- *体は扁平で体節がある、腹面の前後端に吸盤がある
- *体色は白、薄緑、茶色、灰色、縦縞など様々である
- *体長は約10~70mm (伸びちぢみをする)

水環境評価



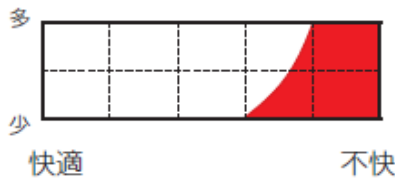
サカマキガイ

No22



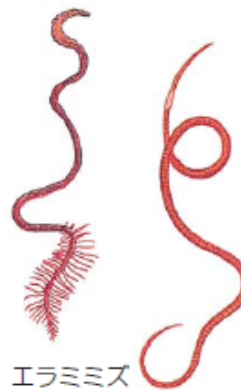
- *巻貝類 (軟体動物)
- *体色は淡黄褐色、黒褐色
- *体層は大きい
- *殻口は大きく左側
- *殻径は約4~6mm
- *殻高は約10~15mm

水環境評価



イトミミズ類

No23

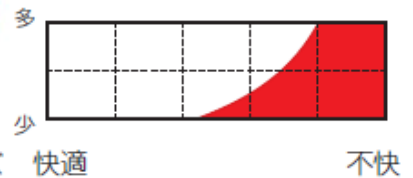


エラミミズ

イトミミズ

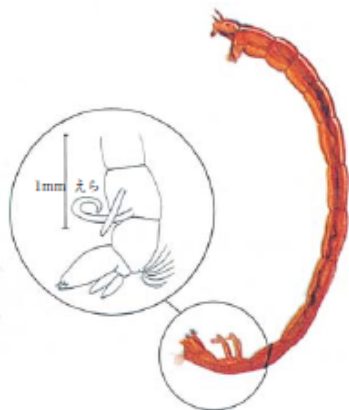
- *環形動物 (貧毛類)
- *体は糸状で体節がある (後体部に糸状の突起を持つものがある)
- *体色は淡紅色~赤色
- *体長は約20~70mm

水環境評価



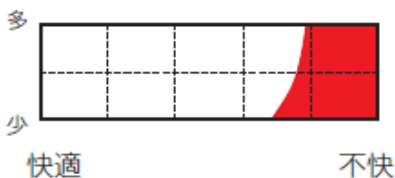
セスジユスリカ

No24



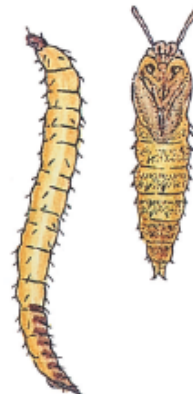
- *水生昆虫 (幼虫)
- 双翅目 (力の仲間)
- *胸部に1本足のようなものがある
- *後部体節に2対のエラ
- *体色は真っ赤な色
- *体長は約10~17mm

水環境評価



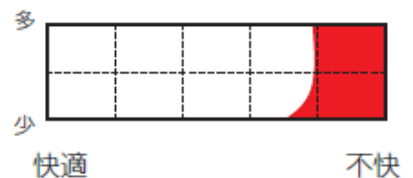
ホシチョウバエ

No25



- *水生昆虫 (幼虫)
- 双翅目 (力の仲間)
- *後部2節の小環節に黒褐色のキチン板
- *体色は灰白色
- *体長は約3~10mm

水環境評価



観察レポート

1. 採集日 令和元年(2019)6月 日() 時 分

2. 観察事項

ポイント	()		
班員	() () ()		
	() () ()		
天候		気温	℃
採集場所の水深	cm	水温	℃
流れの様子・流速	m/秒	川底の状態	
水の色		透視度	
調査ポイントに生息している植物(写真記録)			
水の濁り・におい・ゴミ・水草の様子・家庭排水など周囲の環境で気付いたことを記録しておく。			

3. パックテストおよびpH計による水質調査

	NO ₃ (mg/L) 硝酸態窒素	PO ₄ (mg/L) リン酸態リン	pH
1回目			
2回目			
3回目			
平均			

4. 分光光度計による水質調査

COD (ppm) 化学的酸素要求量	PO4 (ppm)

5. 採集した生物の集計

	種 名	個体数 (匹)	総重量 (g)	個体群密度 (匹/m ²)	重量密度 (g/m ²)
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

※数値は、小数第3位まで求める。(個体群密度・重量密度)

～ 個体群密度 (匹/m²)・重量密度 (g/m²) の求め方 ～

匹 (または g)

調査面積 (m²) × 調査回数 × 調査人数

熊本市江津湖 水環境調査結果集計用紙

調査団体名	熊本県立第二高等学校 理数科1年	調査参加人数 生徒 名 職員 名
所在地	熊本市東区東町3丁目13番1号	Tel (096)368-4125
調査担当者名	1年S組 号	氏名

指標生物 (見つかった指標生物に○印、数が多かった上位から2種類に●印を記入)		
水質階級Ⅰ	1	カワゲラ類
	2	ナガレトビゲラ類
	3	ヒゲナガカワトビゲラ類
	4	チラカゲロウ
	5	携巢性トビゲラ類
	6	ニッポンヨコエビ・サワガニ
	7	ヒラタカゲロウ類
水質階級Ⅱ	8	ウズムシ類
	9	ヘビトンボ類
	10	マダラカゲロウ類
	11	タニガワカゲロウ類
水質階級Ⅲ	12	ブユ類・ガガンボ類
	13	カワニナ
	14	ヒラタドロムシ類
	15	コガケロウ類
水質階級Ⅳ	16	コガタシマトビゲラ
	17	ユスリカ類
	18	貝類
	19	サホコカゲロウ
水質階級Ⅴ	20	ミズムシ
	21	ヒル類
	22	サカマキガイ
	23	イトミミズ類
	24	セスジユスリカ
	25	ホシチョウバエ

調査地点の概要 (生物を採取した場所の状況について記入して下さい)	
調査河川湖名	熊本市江津湖
調査地点名	
昨年度の調査状況	今年の調査地点は昨年と同じですか? <input type="checkbox"/> 同じ場所で調査した 昨年度の水質階級は <input type="checkbox"/> Ⅰ <input type="checkbox"/> Ⅱ <input type="checkbox"/> Ⅲ <input type="checkbox"/> Ⅳ <input type="checkbox"/> Ⅴ <input type="checkbox"/> 違う場所で調査した
調査日時	2019年 月 日() 時 開始時刻を24時間で記入(午後2時は14時)
天気	<input type="checkbox"/> 晴 <input type="checkbox"/> くもり <input type="checkbox"/> 雨 調査時の天気をチェックして下さい
水温	°C(小数点1桁まで記入)
川幅	約 m 水の流れの幅を記入(少数点1桁)
生物採取場所	<input type="checkbox"/> 川の中 <input type="checkbox"/> 上流から見て右岸 <input type="checkbox"/> 上流から見て左岸 採取した場所をチェックして下さい
水深	約 m 採取した場所の平均的な水深を記入
以下は、生物を採取した場所にあてはまるものをチェックしてください。	
流れの速さ	<input type="checkbox"/> 速い(毎秒60cm以上) <input type="checkbox"/> 普通(毎秒30~60cm) <input type="checkbox"/> 遅い(毎秒30cm以下)
川底の状態	<input type="checkbox"/> 頭大の石が多い <input type="checkbox"/> こぶし大の石が多い <input type="checkbox"/> 小石と砂 <input type="checkbox"/> コンクリート <input type="checkbox"/> 砂と泥 <input type="checkbox"/> 泥 <input type="checkbox"/> コケ <input type="checkbox"/> その他
水におい	<input type="checkbox"/> においは感じられない <input type="checkbox"/> においは感じられる (ドブ・石油・薬のような不快感のあるにおい)
水にごり	<input type="checkbox"/> 透明またはきれい <input type="checkbox"/> 少しにごっている <input type="checkbox"/> 大変にごっている

水質環境の判定	水質階級	I	II	III	IV	V
	1 ○印と●印の個数					
	2 ●印の個数					
	3 合計(1欄+2欄)					
この地点の水質階級は		です				

その他の生物(水生昆虫・貝・エビ・カニ類)	魚類
水草類	鳥類
	その他、気づいたこと

江津湖の水環境に関する事前学習

令和元年5月14日

演題「江津湖の生物相」

講師 清水 稔 先生（熊本博物館 学芸員）

【メモ・質問】

【感想】

【考察】 調査結果から考えたこと、推測されることをまとめよう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

【感想】

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

【自己評価】

- ①は現地の行動やしおりへの記入などを評価する。
- ②は作成された発表用資料や発表の内容によって評価する。

	I	C	E
① みつめる力	調査・研究の方法を身に付けられた。	調査地や調査対象に合わせた調査をすることができた。	調査地の状況に合わせて独自の工夫を組み込んだ調査を行った。
② きわめる力	調査で得られたデータを記録することができた。	調査で得られたデータから科学的な考察ができた。	調査記録から得られた考察をもとに、論理的に発表することができた。
② つなげる力	調査で得られたデータを班内で共有できた。	調査で得られたデータを他班と共有し比較できた。	調査で得られたデータを他班と共有し、今後の展望に繋がられた。